



日刊新報 昭和十一年六月三十日 第三千九百四十一號

ハイキングは健康に... 友達同志が勢を望む... 天幕または野營旅行の... こと、ハイカーと云へ... ば其の旅行をするもの... ハイヤーは貸貸自動車... または貸貸のことで料... 金の意にも使はれる、

最高では十一銭高
最低では廿一銭高
昨十一日の石城米共販相場
地方商人の持米薄から

石城郡共販聯合會に於ける昨十一日の米米共同販賣は左記の如く各倉庫を合計する四百十五依の平均に對して十數名の競争入札の結果は最高十一圓十四銭(大野倉庫)最低十圓九十二銭(鹿島倉庫)を以て取引され前日に於ける最高十一圓三銭(小川倉庫)より十一圓高並に最低十圓七十一銭(鹿島倉庫)より二十一銭高を示した上値の原因は中央市場が去月末から本月初めの下落を盛り返したのに伴ふものと地方商人の手持薄からと見られ米價は當今のところ此の邊の値頃で保ち合ふものといはれ

小川江の規約改正

選被選舉權を擴張
臨時委員の正式設置
數ヶ町村の合算反別に有資格

石城郡小川江水利組合の臨時總會は既報の如く昨十一日午前十時から町同組合事務所樓上に於て開催した出席議員は全員二十六名(一名缺員)で富澤管理者の提案規約改正を萬端一致で可決午後零時半閉會したが改正の概要は左記の如くである
改正理由は時勢順應によつ

たに同設置の組合規約を定めたるもの▲其の他規約文

小名濱大商港の振興座談會開催

東北港振興調査會は港灣行政の確立を期するため委員長本島出身貴族院議員堀切善次郎氏、監事工學博士安藤杏一委員大坂商船監督役末永一三の三氏外三名の委員が東北港灣振興のトツプを切つて十四日午前十時から小名濱商港を視察するが此れを好機として縣當局では當日午後二時から新設の町同小學校講堂に於て新任經濟部長が議長となつて小名濱商港振興の座談會を開催すが當日座談會の出席者は前記堀切委員以下五委員を中心として縣側から伊藤知事、大石土木課長、木村技師、阿部、仁野兩主事、地元側として金成貴族院議員、佐藤、鈴木、比佐三代議員、井上、野崎、萩原、田子、石川、草野六縣議、青沼中町長、小野小名濱町長、同高木助役、後藤平隊長、中山水産試験場長、西山小名濱校長、水野小名濱漁業組合長、福尾水産工業會社長、西丸猛外二名町會代表、磐城、入山、古河三大炭礦、昭和人絹(錦)品川白煉瓦會社、湯本警務署(四)代表者等三十余名、地元關係者や小名濱大商港實現後

濱三郡町村長會選舉肅正案協議

縣主催の濱三郡町村長會は二正を主眼とするもので町村選十六日午前九時から町第三小學校講堂に於て開催し決定長官會議に於ける決定事項の伊藤知事から十一日召集命令が發せられた今次濱三郡聯合町村長會開催の目的は選舉肅正案協議である

見事な新橋二つ
道高橋と道四時橋
來る廿五日頃竣功検査

石城郡渡邊村内地道の高橋は湯本町渡邊長作氏の請負で工事中であつたが此の程竣功を告げた同橋は丁字形の總鐵筋コンクリート延長二十米市筋七米五〇工費一萬圓を要し、二方面を要し僻地には珍らしい總鐵筋コンクリートの外観美を止め兩橋共に二十五日頃竣功検査を行はれると

左翼運動は看板
實は恐喝が専門
社會大衆黨鈴木を檢舉
平署の夕二狩り進展

平署の夕二狩り進展は今日十二日續行され早晩司法、特高刑事連は八方に飛んで活躍中であるが同日午前八時半内郷村大字綴大日本社會大衆黨常務支部執行委員鈴木浦治(五)を檢舉し特高主任係りで取調すると共に警官を急派して同人家宅捜査を開始中であるが鈴木は現在常盤地中に残存する唯一の労働運動場人夫中野廣(四)同小野敏夫(五)の兩名は植田署の手配により十一日千葉縣本署警察署に檢舉されたので植田署から伊勢、中野署員が引取りのため同地に向つたが中野小野の兩名は例の植田署に送付され荒川側に組み込まれた加害者富岡、鈴木兩名の家族の扶助料をくれと荒川の第三郎から金百圓を強請家族には一文も與へず横領逃走したもので外同人等と共に三名の共謀者があるのを引續き行方追究中である

小兒溺死
遊戲中墜落
橋梁架換入札

好間村大字上好間小館古河炭礦坑夫磯波吉三男武男(五)は昨十一日午後四時頃同炭礦水泳プール附近で遊戲中誤つて頭部溺死しその程經過で武男の歸宅が遅れたのを案じた母親が発見大騒ぎとなり平署から菊地部長出張視察した

赤井小川二毛作
品評優良者
赤井根本軍平 大赤井井松 本富三郎 下小川大森又重 田久重雄 鈴木末太郎 紫雲英下小川吉田菊松 柴垣

北海道から
教育視察
町費四拾圓の補助を受けての視察調査旅行、長途九州炭坑地帯を目的地として出發しました。途中第一(七日)は農村經營として全國に有名な愛知縣安城町を視察先覺者、山崎延吉先生、岡田菊次郎先生に敬意を表しつつ、早稲に近づいた。商工會議所を訪問、市況を聞きし産業發展の大なるに驚きました。岡山、倉敷、廣島宮島を視察して昨夜八時半常市部市に入り第三夜の宿を取り今日は人口八万炭坑地の状況を見學する予定、今夕はいよいよ九州入りです。當地は全く初夏気分一同無異大元氣、仲々豫定が無理なので閉口してゐます。又後便にて六月十日朝 多田井生

